

常 設 委 員 会 報 告



総務委員会報告

委員長 阿部 暢夫

令和6年度 総務委員会は、下記の10名にて構成されています。

委員長：阿部 暢夫(富士開発(株))
副委員長：加藤 信治((株)松原工事事務所)
委員：西部 雅英((株)ヨコタテック)
委員：佐藤永一郎((株)中部ウエルボーリング社)
委員：天木 亨(興亜開発(株))
委員：笠間 大樹((株)フジヤマ)
委員：駒田 泰士(協和地研(株))
委員：土屋 靖司((株)富士和)
委員：岩部 健治(不二総合コンサルタント(株))
委員：山本 貢司(東洋地研(株))

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しています。主な活動としては、以下の通りです。

- イ)公正取引に関する法令遵守及び論理規定に関すること
 - ロ)新入会員の入会促進運動
 - ハ)地質調査の資格試験に関すること
 - ・地質調査技士等、資格検定試験の実施
 - ・地質調査技士受験対象者講習会の実施
 - ・地質調査技士登録更新講習会の実施
 - ・地質情報管理士資格検定試験
 - ・その他地質調査技士に関すること
 - ニ)四支部協議会の実施
 - ホ)会員相互の親睦会の実施
 - ヘ)その他協会運営に関すること
- 以下に主な委員会の活動報告を致します。

●第64回通常総会

令和6年5月10日 名古屋ガーデンパレス
出席者：会員38社(38名) 賛助会員3社(3名)
表彰者4名 報道関係3名 事務局2名

●親睦ボーリング大会

令和6年5月24日 名古屋グランドボウル
参加者：96名(20社)
優勝者：団体 (株)大和地質
個人 金子 佳弘

●第60回地質調査技士受験者対象講習会

令和6年6月28日 名古屋国際会議場
受講者数：68名
講師：折野 好高((株)東海環境)
二階堂 学(大日本ダイヤコンサルタント(株))
大石 雅彦(中央開発(株))
棚橋 昌平(応用地質(株))

●臨時社員総会

令和6年7月5日 書面決議
役員改選：退任 武藤理事, 富岡監事
新任 滝藤理事, 二階堂監事

●第58回地質調査技士資格検定試験

令和6年7月13日 名古屋国際会議場
受験者数：124名

検定試験結果

部 門	受 験 者	合 格 者
現場調査	29	12
現場技術・管理	86	25
地質情報管理士	9	1
合 計	124	38

試験官：小島理事長, 深井副理事長
河原広報委員長, 深谷技術委員長

●懇親ゴルフ大会

令和6年10月18日 こぶしゴルフ倶楽部
参加者数：12名
優勝者：吉田 憲司(富士開発(株))

●令和6年度 地質調査技士登録更新講習会

令和6年11月15日 名古屋国際会議場
受講者数：155名
講師：出口 祐二(東邦地水(株))
津坂 喜彦((株)アオイテック)
田中 史郎(富士開発(株))
近藤 勉(川崎地質(株))



●新春賀詞交換会・麻雀大会

令和7年1月11日 麻雀「琥珀」
参加者：28名(14社)
優勝者：鈴木 太((株)東海環境エンジニア)

●四支部協議会

令和6年11月27日 協会事務局
中部協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部協会との連携を密に協会員の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

最後に委員会活動に対して、ご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



研修委員会報告

委員長 大久保 卓

令和6年度の研修委員会のメンバーは以下の10名で構成されています。

委員長：大久保 卓((株)大和地質)
副委員長：二階堂 学(大日本ダイヤコンサルタント(株))
委員：都築 孝之(日本物理探査(株))
委員：澤田 茂((株)総合開発調査)
委員：福本 延和(日特建設(株))
委員：小笠原朋弘((株)ティビー)
委員：伊藤 健二((株)日さく)
委員：中野強一郎((株)中野地質)
委員：大井 寿彦((株)東日)
委員：高橋 将也(村木鑿泉探査(株))

当委員会の本年度の活動内容は以下の通りです。

- イ) 協会の技術向上のための技術研究会・講習会の開催
 - ロ) 現場見学会による研修会の開催
 - ハ) 技術講習会としての新春技術者懇談会の開催
 - ニ) 女性技術者活躍推進委員会・座談会の開催
- 以下に、主な活動について報告します。

●令和6年度 女性技術者座談会の開催(第6回)

開催日時：令和6年6月7日(金)
場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス
参 加 者：19名
議 題：「より女性が活躍できる環境とは」

●内閣府男女共同参画局の理工チャレンジ

「夏のリコチャレイベント」の開催
開催日時：令和6年8月19日(月)
場 所：TKP名古屋伏見ビジネスセンター
参 加 者：26名
議 題：「大地の宝石箱☆ジオード☆を割ってみよう～女性技術者と学ぶ、地質のお仕事～」

●現場見学会の開催

開催日時：令和6年11月13日(水)
場 所：木曽川本流 新丸山ダム
参 加 者：24名

既存ダムを壊さず機能を維持しながら新ダムを建設する、国内初の試みを見学することを目的としました。既存の丸山ダムは、昭和31年3月完成後、昭和58年9月の豪雨災害をきっかけに洪水調整能力の強化が望まれ計画されました。工事着手は、昭和61年4月。丸山ダムより20.2m高くなり、洪水調整容量は7,200万m³(約3.6倍)発電量は21万kW(約1.2倍)となります。また、中部技術事務所(中部インフラDXセンター)も見学しました。

●全地連主催のスキルアップ講習会

当委員会として3名の受付、資料配布の応援をしました。参加者は、発注者関係が約40名、協会関係等が約40名、合計80名の出席でした。

●新春技術者懇談会の開催

開催日時：令和7年1月24日(金)
場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス
参 加 者：講習会46名、懇親会42名
講 師：大谷 具幸先生
(岐阜大学工学部社会基盤工学科教授)
議 題：「令和6年能登半島地震による地質災害とそこから学ぶこと」

大谷先生の講演内容は、地震による地質災害とそこから学ぶことについて、我々業者の専門とする地質を中心に話されました。出席された各員の皆様には、たくさんの質疑があり、大変盛り上がり充実したひと時を過ごすことができました。



写真-1 大谷先生による講習会の様子



写真-2 懇親会の様子

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員、女性活躍推進WGのメンバー及び会員各位に心から感謝申し上げます。

常設委員会報告



女性活躍推進ワーキング活動報告

女性活動推進WG 岩崎 理代

1.ワーキングの構成

女性活躍推進ワーキンググループは平成30年度に研修委員会のもとで新しく発足され、発足から6年を迎えました。今年度も新加入メンバー1名を迎えた新体制、以下8名のメンバーを中心に活動を行いました。

リーダー◎岩崎 理代(大日本ダイヤコンサルタント(株))

石原 聖子(中部土質試験協同組合)

下山 友実(日本工営都市空間(株))

高見 幸恵(川崎地質(株))

藤代 祥子(日特建設(株))

平江 喜子(応用地質(株))

三好 千春(東邦地水(株))

【新】山澤 朋夏(東邦地水(株))

にSNS(X:旧Twitter)での定期的な情報発信を行っています。情報の内容としては、地盤・地質・土質等幅広く、専門的なことから誕生石や化石についての話題、現場近くのスポット情報など学生に興味を持ってもらえそうな内容まで幅広く行っています。今後はさらに更新内容を充実していき、世間の流行や興味に合わせてInstagramなど、他の媒体での発信も検討していきたいと思っています。



図-1 X(旧Twitter)ロゴ(新)とQRコード

2.活動の概要

令和6年度は、感染症対策がかなり緩和され、本WGにとって、本格的に活動ができた年であり、愛称の決定やロゴマークを作るなど、皆様に認知いただき愛されるWGを目指す足掛かりとなる一年となりました。

令和6年度の主な活動の内容は以下6点です。

- ①女性技術者座談会の開催
- ②内閣府の取り組み(リコチャレ)夏の学校
- ③SNSでの情報発信
- ④女性技術者向けのメルマガ配信
- ⑤小牧工科高校での出前授業
- ⑥WG愛称とロゴマークの作成

①女性技術者座談会の開催

女性技術者同士のネットワーク構築や、働きやすい環境づくりに向けた問題抽出を目的として、女性技術者座談会の開催を計画しました。詳細は3項です。

②内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加

理工チャレンジ(リコチャレ)とは理工系分野に興味のある女子中高生・女子学生に向けて進路選択を応援するため内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組みで、理工系分野の大学や企業などが『リコチャレ応援団体』として紹介されており、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っています。

令和6年度は「リコチャレ夏の学校」と題したイベントに参加をし、ジオードクラッキングを体験できるイベント「大地の宝宝箱☆ジオード☆を割ってみよう～女性技術者と学ぶ地質のお仕事～」を開催しました。詳細は4項です。

③SNSでの情報発信

地質調査業知名度向上を目指した活動の一環としてより多くの若者や女性に業界のことを知ってもらうため

④女性技術者へ向けたメルマガ配信

本取り組みは、女性技術者座談会同様、会社や役職の垣根を越えて、横のつながりを形成することを目的に、3年前より始めた取り組みです。

メルマガの配信はWG発足後6年間で女性技術者座談会に参加していただいたことのある方を対象に配信し、身の女性技術者へメルマガ配信の登録を呼びかけるよう促しています。

配信内容は、WGの活動紹介や座談会への参加お礼に加え、専用メールアドレスへのよろず相談受付のお知らせを書き添えました。

ワークライフバランスのとり方など、ご質問やWGへの参加希望など、お気軽にお寄せいただければと思います。

四半期に一度の配信を目指し、引き続き配信を継続していく予定です。

⑤小牧工科高校での出前授業

今年度は社会人講話講師派遣として、愛知県立小牧工科高等学校より依頼いただき、環境科学科の高校二年生18名を対象に出前授業を行いました。詳細は5項です。

⑥WG愛称とロゴマークの作成

WGの愛称を「中部GEOラバーズ」と決定し、X(旧Twitter)ロゴに新しく使用しているロゴを作成しました。

愛称には、中部地質調査業協会に所属の愛知、岐阜、三重、静岡4県を指し、女性に特定せず、将来的に男女共同参画を目指すことができるものとなりました。

3.女性技術者座談会の開催

3-1 女性技術者座談会の概要

女性活躍推進ワーキンググループでは令和6年6月7日に第6回女性技術者座談会を名古屋ガーデンパレスに

て開催しました。座談会では、「より女性が活躍できる環境とは」をテーマにざくばらんな意見を交わすことができました。

参加者は経験年数が0年～32年に及ぶ、多様なキャリアパスを有する19名の方に参加いただき、例年通りワールドカフェ方式でお茶とお菓子を楽しみながら活発な意見交換ができました。

会場には、数名分のロールモデルを掲示し、自由に閲覧できるようにしました。この業界で就職してからの資格取得のタイミングや転職、昇職など、自身のキャリアパスやワークライフバランスを考える上での参考になると好評でした。



写真-1 座談会の様子
(模造紙に自由に意見を書き込んでいきます)

3-2 座談会での議論

会場での議論は女性技術者として働く上での困りごと、その解決策やより働きやすくするための制度等について等、新型コロナウイルス感染症の流行後に整ってきた各社ごとの働き方について、意見交換を行いました。

テレワークや時間休、フレックスタイム等の制度が整ってきている会社が多く、通院や家族の行事、昔にくらべてメリハリのある働き方ができるようになってきたとの意見が多くありました。

また一方で、働き方の制度が整っているのに、上長が利用しないので利用を申し出にくいとの意見もあったため、階層が上の方へ向けた働き方研修をすすめてほしいとの意見が出ました。

現場に出る技術者からは、現場の女性用トイレの設置はかなり進んでいると感じており、役所業務等でも週休二日が定められて発注されているケースも多く、休日の予定がたてやすく、休日の保育先を探さなくても良くなったとの意見が出ました。

その他に、去年より意見が多く出るようになった作業着については、かなり関心度が高いようで、女性向けサイズがあるものを採用されているか、色や素材のベストは何か?という議論が今年も活発に行われました。

共通して要望として挙げたスタイルは、ポケットの多いもの(機能性の高いもの)、色は濃色(紺、濃茶、黒など)、女性の体形にフィットするものが挙げられ、経血汚れに対して目立たないもの、汚れの落ちやすい素材がよいとの意見が強く出ました。

また、座談会後のアンケートで、参加者からは「タイムマネジメントについて、仕事・プライベートでどんな時間管理をしているか?皆さんの工夫をもっと聞きたい」や「年に1回の座談会以外にイベント開催してほしい」、「話しやすい環境で同業の同性と話せる機会が今までなかったので、とても新鮮であったという間だった」、「去年、この座談会で議論した内容から上長へ相談を行い問題解決につながった」など、WG活動への積極的な関心が示され、うれしい言葉をいただきました。



写真-2 参加者の集合写真
(大久保研修委員長を囲んで集合写真が恒例行事です)

昨年に引き続き今年も懇親会を開催できました。参加者は同年代で集まって交流したり、同じ会社の先輩と後輩が一緒になったりと、様々な組み合わせで立食パーティーを楽しみました。最終的には、自然と全員が一つのテーブルに集まり、次回の再会や集まりの約束を交わし、会を締めくくりました。

女性技術者座談会開催にご理解いただき、ご協力いただいた皆様、ならびに、座談会出席にご理解いただいた各社様にこの場を借りてお礼申し上げます。

4. リコチャレ夏の学校イベント開催

4-1 イベント概要

女性活躍推進WGでは内閣府男女共同参画局のリコチャレイベントとして令和6年8月19日にTKP名古屋伏見ビジネスセンターにてジオードクラッキングを体験できるイベントを「大地の宝石箱☆ジオード☆を割ってみよう～女性技術者と学ぶ地質のお仕事～」と題して開催しました。

応募に際しては内閣府HPやX(旧Twitter)、協会から各社さんへのメールにて周知していただきました。

常設委員会報告



女性活躍推進ワーキング活動報告

女性活動推進WG 岩崎 理代



図-1 募集チラシ

参加者は定員20名に対し、26名+付き添いの幼児2名の申し込みがあったが、当日は病欠や無断欠席があったため、小中高生18名と付き添いの幼児2名、計20名の参加があり、小学校中学年、低学年と小学校高学年、中学生の2班に分かれてイベントを行いました。

付き添いの幼児は安全上の配慮から、ジオードクラッキングではなく、砂の中に埋まっているコインやマスコット、天然石を掘り出す宝探しを用意しました。

- ・地質ってなに？
- ・地質調査って？
- ・中部Geoラバーズの活動について
- ・ジオードって何？
- ・ジオードを観察しよう！

という流れでワークシートを用いて進めていき、その後いよいよ自分のジオードを選び取り、順に割っていきました。ジオードはモロッコ産のものを用意しました。



写真-3 解説ボードを使って説明するメンバー

保護メガネと軍手を装備し、真剣な面持ちで、ハンマーを振るい、なかなか割れない子や、すぐに割れる子、「わぁ

キレイ!」と感嘆の声をあげながら内部を観察し、手触りやにおい、色などを観察し、ワークシートにまとめました。



写真-4 ジオードを割る様子
(安全のため事前にグラインダーで切り込み済みです)

同じものは1つとない自然の造形に触れ、子供たちは目を輝かせながら、まわりの子達と和気あいあいと見せ合ったりしていました。

その後は割ったジオードをつかって、カラーサンドや小物とともに、小瓶に詰めてジオラマを作り、持ち帰りました。

当初2時間の予定であったが、子供たちは楽しそうな様子でなかなか終了できず、40分ほど予定より終了を遅らせることとなりました。

帰り際には、来年もまた参加したいと声をかけてくださる方々もあり、好評のうちにイベントは終了しました。



写真-5 ジオラマ作り～皆真剣!!!!～

子供たちに地質について興味を持ってもらうことができ、皆楽しい時間を過ごすことができました。中部Geoラバーズは今後も小中高生に向けて、地質調査業の魅力を発信していけたらと思います。



写真-6 作ったジオラマをもって記念撮影

5.小牧工科高等学校への出前授業

今年度も昨年に引き続き、愛知県立小牧工科高等学校より依頼を受け、社会人講話講師派遣として出前授業を行いました。

出前授業は環境科学科に所属する2年生、18名(男子13名、女子5名)で、1時間50分(途中休憩時間含む)の時間をいただきました。

授業方式はグループワークとし1グループ4～5人、男女混成としました。

出前授業の内容は、地質調査業についてとその社会的役割、女性活躍推進WGの活動を説明した後、ミニ実験を行いました。また、将来の進路選択に悩む学生が多いことから、業界で働く若手技術者のキャリアパスなどを紹介しました。

ミニ実験ではメンバー自作の実験装置とワークシートを用いて円弧すべりの実験と液状化の実験を行いました。

円弧すべりの実験では、地すべりの起こる要因、仕組みを説明し、装置を使って実演しました。

その後ワークシートでは、どのような対策を行うことで災害を防げるかをテーマに対策工の検討に取り組みました。

対策工の検討では、現在採用されている工法も100年前には考えられなかったようなものも多くあるが、技術の発達や工法の開発でどんどんより良いものが日々生まれていると投げかけ、生徒達には新工法の開発者になったつもりで取り組むよう説明し、現実的な意見も非現実的な意見もどんどん出しあい、互いの意見を尊重しとりまとめよう促しました。

これらの議論の中で、水抜きボーリングや抑え盛土、アンカー工など実際に使用されている工法が発案されたときはその対策工の写真を見せ、装置を用いて実験を繰り返し、実演しました。

様々な意見が出た中、最近SDGsについて学んでいるとのことで、「すごく深くまで根が張る木や植物をたくさん植えたら?」「水を通しやすい層をスポンジみたいな吸水素材になるように変えられないかな?」「地下に貯水池?を作り、水抜き穴を作って発電したらどうか?」など高校生ら

しい面白い発議と展開を見せたグループもありました。

授業の最後には、「自分たちが当たり前のように過ごしている学校の下がどうなっているかなんて考えたことなかった!」「液状化の仕組みがわかった!」「高速道路でよく見るコンクリート(アンカー工)が何か分かった!」「将来家を買うときはハザードマップを確認して地盤のいいところを選びます!」などの声をかけてくれた生徒もいました。



写真-7 ミニ実験の様子

受け身の授業にならないよう心掛け、実際に学生に体験してもらい、考える作業を共にし、フレッシュな意見を聞き、こちらも大変刺激になった一日となりました。



写真-8 液状化実験中

6.今後の活動について

来年度は、新たなメンバーの増員を予定し、年1回の女性技術者座談会を含む、業界の魅力、認知度向上のための様々な活動を計画しています。

高校等への出前授業も依頼を頂ければ積極的に参加していく所存です。

また、女性技術者座談会でのアンケート結果に応えるべく、現場見学会や講習会などの企画を進めていき、女性が働きやすい環境・制度を整備できるよう、協会への働きかけを随時行っていきます。

常 設 委 員 会 報 告



広報委員会報告

委員長 河原 弘明

令和6年度の広報委員会は、委員長・副委員長をはじめ、以下の10人のメンバーで構成されています。

委員長：河原 弘明(中央開発(株))
副委員長：鈴木 太((株)東海環境エンジニア)
委員：浅川 実(日本エルダルト(株))
委員：亀谷 祐幸(大和探査技術(株))
委員：川原 久幸((株)テイクコ)
委員：坂本 健二(東海ジオテック(株))
委員：白川部竜也(松阪鑿泉(株))
委員：竹市 雅司((株)東京ソイルリサーチ)
委員：藤森 弘則((株)増田地質工業)
委員：堀内 律輝(復建調査設計(株))

本年度の広報委員会活動は、令和6年度通常総会で承認されました以下の7項目です。

- イ)発注者に対する広報活動
 - ロ)中部地方整備局との意見交換会
 - ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
 - ニ)全地連積算委員との連携
 - ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
 - ヘ)改訂版全国標準積算資料の広報宣伝活動
 - ト)広報活動での「土と岩」配布
- 以下に、主な活動について報告します。

●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会社のご協力を頂き、8班編成で7月上旬～8月下旬にかけて行いました。

一次官庁本局については、理事長、副理事長、広報委員長が訪問しました。

広報委員会が担当する愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人については、各班で事務所を訪問し、広報活動資料の説明・配布を行いました。

愛知県協会、岐阜県協会、三重県協会、静岡県協会は、各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会員名簿
- ・機関誌「土と岩」72号
- ・防災協定の写し
- ・全地連資料館 QRコード

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け継がれてきました。

今回配布した協会誌72号は、特集として「資格の取得と活用について」と題して、我々、地質調査業に関する様々な資格についての体験談、具体的な勉強方法やポイント、アドバイス、メリット、苦労話、メッセージ、資格や試験の概要等についての紹介となっており、若手からベテランまでが一読に値する内容です。

同号には、大東地盤環境研究所所長の大東憲二様から「山岳トンネル建設工事における地下水環境影響評価－中央自動車道長野線 岡谷・塩尻トンネルを例として－」と題して特別寄稿を頂いております。

加えて、国土交通省中部地方整備局と行った、「令和5年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」の模様も報告しています。

地質調査の重要性について、各発注者の理解は、年々、高くなってきています。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高くなっており、突然の訪問にも関わらず各発注者には快く対応して頂き、ここに、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「令和6年度地質調査業に関する中部地方整備局との意見交換会」は、意見交換会の内容を発注等に活かしてもらえるように、今年度もできるだけ早期に開催できるように取り組み、令和6年10月29日にKKRホテル名古屋にて開催し、整備局より貴重なご意見を賜りました。その模様は本誌でご報告していますので、是非ともご覧ください。

今後もますます(一社)中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。



令和6年度 地質調査業に関する
中部地方整備局との意見交換会



技術委員会報告

委員長 深谷 雄二

今年度も昨年度に引き続き、ミニフォーラムの企画・開催や学協会行事への共催・協力を主な活動としてきました。

技術委員会のメンバーは、以下の9名です。

委員長：深谷 雄二(日本工営都市空間(株))
副委員長：松浦 好樹((株)ジーベック)
委員：今津 基洋(東海地質工学(株))
委員：大畑 文彦(昭和設計(株))
委員：片岡 泰((株)キンキ地質センター)
委員：勝眞 浩一(南海カツマ(株))
委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))
委員：土屋 国彦(土屋産業(株))
委員：広瀬 義純((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)

主な技術委員会活動は、以下のとおりです。

- (1) 会員各社の技術向上を目的とした技術研究の促進・「中部ミニフォーラム2024」企画・開催(R6.10.11)
- (2) 地盤工学会中部支部、日本応用地質学会中部支部等の諸行事への共催、事業協力
- ・「地盤調査ボーリング作業、物理探査見学会」の開催(R6.4.26)

なお、全地連主催の講演会開催支援については今年度の活動はありませんでしたが、昨年度に引き続き国土交通省中部技術事務所が実施する「R6年度基礎技術研修(R6.11.18)」への講師・実習を担当しました。

■地盤調査ボーリング作業、物理探査見学会

地盤工学会中部支部主催の「地盤調査ボーリング作業、物理探査～室内土質試験見学会」では中部土質試験協同組合と作業分担して実施しております。

技術委員会では、ボーリングマシンを使用する現場作業、原位置試験等の実作業や物理探査作業を見学する場を提供しています。また、ボーリング用ツールについても各種展示しました。

参加者は53名で、地質調査会社、コンサルタント会社、建設会社、学生などで、協会員各社からの参加は23名でした。主催者からも人気がある見学会との評価をいただいております。



ボーリング作業見学会の状況

■中部ミニフォーラム2024

今年度は10月11日、名古屋国際会議場にて開催され、52名のご参加をいただきました。

例年同様、若手・中堅技術者の発表力の向上に注力し、発表編数は昨年度の8編とほぼ同じの7編とし、「若手・中堅技術者の発表練習の場」という位置付けとしました。発表12分、質疑・意見交換8分の時間配分とし、活発な質疑応答・意見交換が行われました。

特別講演は、「地質調査における物理探査の利用」と題し、全地連・相澤隆生氏にご講演をいただきました。物理探査を地質調査においてどのように利用しているのかについて、事例を多く取り入れてご講演いただき、非常に有意義な内容でした。

発表会終了後は、意見交換会&懇親会を開催し、懇親を深めることができました。

優秀論文発表者は、論文審査及び発表審査の結果、下記の2名に決定しました。

- ・「大規模盛土造成地業務の現地踏査におけるDX活用事例」：林 択望(日本工営都市空間(株))
- ・「安定処理土の供試体作製における混合方法についての研究」：大橋 翔(中部土質試験協同組合)



中部ミニフォーラム2024 発表会場

■中部技術事務所「基礎技術研修」への講師派遣

昨年度からの取り組みで、国土交通省中部地方整備局の職員を対象とした地質・土質に関する基礎技術研修で、座学および簡易支持力測定(キャスポル)の現場実習およびデータ整理を行いました。また、後半ではジオ・ラボ中部で地盤材料試験の実習を行いました。受講生のから好評をいただいております。次年度も地質調査の広報活動も兼ねて、継続していく予定です。

関連する学協会の行事への共催・後援については下記に示すとおりです。

■地盤工学会中部支部

- ・第33回 調査・設計・施工技術報告会(R6.6.21)
- ・第36回 中部地盤工学シンポジウム(R6.8.6)

■日本応用地質学会中部支部

- ・令和6年度 技術交流会・講演会・意見交換会(R6.6.22,23)

常 設 委 員 会 報 告



防災委員会報告

委員長 大橋 大輔

令和6年度のメンバーは以下の8名です。

委員長：大橋 大輔((株)朝日土質設計コンサルタント)
副委員長：滝藤 泰臣(青葉工業(株))
委員：御宿 洋二((株)興栄コンサルタント)
委員：下原 甚介(国土防災技術(株))
委員：小川 晴彦(東海テクノス(株))
委員：岡野 直次((株)ランドテクト)
委員：齋 秀((株)東海建設コンサルタント)
委員：堀岡 征矢((株)東洋地質)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです。

1.事業者リストの更新作業

中部地方整備局との災害協定に基づき事業者リストの更新作業を行いました。今年度は、登録協会員59社、本店・支店・営業所を合わせて計96事業所が登録され、登録派遣人員数は584名、ボーリング台数119台となっています。

2.南海トラフ対策戦略会議の構成員としての活動

令和6年5月15日第15回戦略会議及び第8回中部ブロック南海トラフ地震対策推進連絡会(リモート会議)に出席しました。構成機関は、「中部圏地震防災基本戦略」に基づいて取り組みを進めるとともに、戦略会議や地震・津波対策アドバイザー会議による情報共有・意見交換や南海トラフ巨大地震を想定した訓練等を連携して進めています。

3.三重四川連合総合水防演習に参加

令和6年5月19日令和6年度三重四川連合総合水防演習に参加しました。大規模な水害に備え、水防工法の実演や防災機関による情報共有訓練・被災者救助訓練などの水防演習・防災訓練・防災機器の展示等が行われました。



水防演習

4.安全パトロールの実施

令和6年11月19日愛知県稲沢市内にて、安全パトロールを実施しました。防災委員会のメンバー等8名が参加し、現場内の安全対策を確認しました。今後ともパトロールの実施を通じて、協会員全員が安全安心な作業を行い、事故を起こさないように徹底していきたいと思えます。



安全パトロール

5.「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地方整備局との災害協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練を行っています。中部地方整備局管内で震度6強の地震が発生したことを想定して9月25日に実施しました。

南海トラフ地震が発生し、協会事務局が被災したという想定で、岐阜県地質調査業協会(岐阜市)に災害応急対策本部を設置しました。訓練当日は5県にまたがる登録会員96事業所に対し、PCメールで情報収集を行いました。

登録96社中86社(89.6%)が出勤可能との連絡があり、メール連絡網は十分機能していることが確認されました。土質、地質、地すべり技術者合わせて247名、機長・助手148名、ボーリング機械83台が出勤可能という結果でした。

以上が活動報告です。

全国に災害が多発する中で、中部地方整備局との災害協定を軸に、協会としての防災体制を構築してきました。

今年度は南海トラフ地震臨時情報が出されるなど、災害への備えの必要性が大きくなってきています。会員各社におかれましては、引き続き要請時への連絡派遣対応が円滑にできるよう社内防災体制の確立にいっそう努めていただきますようお願い申し上げます。



編集委員会報告

委員長 今井 良則

令和6年度の編集委員会は、下記の9名で運営してきました。

委員長：今井 良則(応用地質(株))
 副委員長：小川 博之((株)アオイテック)
 委員：吉岡 恭一(明治コンサルタント(株))
 委員：小暮 充範((株)グランドリサーチ)
 委員：藤本 俊之((株)東建ジオテック)
 委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント(株))
 委員：小田 秀昭((株)建設コンサルタントセンター)
 委員：阿部 卓也((株)岐阜ソイルコンサルタント)
 委員：谷口 昇(丸栄調査設計(株))

今年度の編集委員会は、以下の活動を行いました。

- (1) 中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」72号の発刊・配布先の検討・配布と73号の企画・制作
- (2) 中部地質調査業協会のホームページの管理および更新・改良(ホームページワーキングを担当、ホームページワーキンググループの活動内容は別途掲載)。

●「土と岩」73号の企画・制作

今年度は、年始早々に能登地震が発生し、その後も日向灘地震などが発生し、「南海トラフ地震臨時情報」が気象庁から発表されました。

また、2025年は阪神・淡路大震災から30年の節目の年です。こういった社会情勢を踏まえ、「土と岩」73号では地震を特集テーマとして企画していくこととしました。

「土と岩」では、これまでも阪神淡路大震災や東日本大震災などの際にもテーマとして取り上げてまいりました。今回は、今後が発生が懸念される南海トラフ地震へ備えるということを踏まえ、地震発災前、発災直後、発災後の3つの小テーマを設けることとし、各々について有識者の方々などに執筆を御願ひすることとしました。

●特集：地震災害から命を守る

上記のように、地震を特集企画としてすすめることとし、小テーマ「発災前」「発災直後」「発災後」に分けて有識者の方々に執筆を御願ひすることとしました。「発災前」については、神奈川大学落合努助教に、「発災直後」は中部地方整備局・防災グループ防災室舟橋優室長補佐に、そして「発災後」は、名古屋大学平山修久准教授に執筆を依頼しました。

「発災前」は、地震に備えるという視点で執筆を依頼しました。また、「発災直後」については、今回の能登半島地震における中部地方整備局のテックフォースの活動について紹介いただくこととしました。最後の「発災後」については、発災後の災害対策等について執筆を御願ひしました。

ひと口に地震に備える、地震対策といっても、皆様方自身の職場や家庭での行動に結び付かないケースもあるかと思われます。また、お客様の地震対策に業務の中で関わっていくこともあるかと思われます。そういった際には、今回の発生プロセスを参考にいただき、地震対策に活用していただければと思います。

●特別寄稿について

本号の特別寄稿は、東海大学高橋大介准教授に「沿岸潮位の変動から見た高潮」というテーマで、高潮による冠水の発生メカニズムや高潮と海面水位の上昇の関係についての研究成果を執筆いただきました。地球温暖化に伴う海面上昇について皆様方も深く理解が進むものと期待しております。是非とも、特集記事を参考にいただき、様々な事例に活用していただければと思います。

●中部地区の博物館・資料館の紹介について

昨年(72号)からシリーズが復活しました「中部地区の博物館・資料館の紹介」は、本号では、日本最古の石の博物館(岐阜県七宗町)を紹介します。執筆は、博物館の設立当初から深く関わってこられた名古屋大学足立守名誉教授に執筆していただきました。博物館での展示内容やイベントなどの紹介もされ、大変に興味深い記事となっておりますので、是非ともご覧ください。

●今後の取組みについて

本誌の企画の際には、皆様方のご意見に真摯に耳を傾け、分かりやすく、読みやすく、面白い記事をお届けするよう努力しております。

また、前号(72号)より、編集委員・各社から表紙写真を募集・掲載し、手作り感をアップさせております。

今後も、皆様方に役立つ、分かりやすい記事の掲載を続ける所存ですので、引き続き、よろしく願ひいたします。

ホームページワーキング活動報告

編集委員会・ホームページWG

宮尾 浩一

令和6年度のワーキングの構成

令和6年度のホームページワーキングは、以下のメンバーのほか、深井副理事長、今井編集委員長が加わる構成で活動を行ってきました。

令和6年度も、これまで同様、協会の一体感醸成、協会ホームページの認知度向上を目指した活動とし、連携強化の一環として、静岡支部からのメンバーの参加も継続しました。

委員：宮尾 浩一(応用地質(株))

委員：津坂 喜彦((株)アオイテック)

委員：黒田 了介((株)グランドリサーチ)

委員：佐藤 祥昭(川崎地質(株))

委員：藤田 智広(基礎地盤コンサルタンツ(株))

※柴田委員(基礎地盤コンサルタンツ(株))から交代

委員：中山 雄太(東邦地水(株))

令和6年度の活動概要

令和6年度のホームページワーキングは、すべて会議形式で行いました。

今年度最初のワーキングでは、各委員が、意気込みを表明し、以降、それに従って活動しました。

今年度も、これまで同様、年度活動計画の議論、協会・会員企業の役員交代・移転等への対応、各支部活動のお知らせ、身近な地質スポット、歴史地震スポット等の追加、地質調査や協会活動にも関係深そうなトピック情報の収集・抜粋・掲示、ホームページ不具合の解消活動等を行ってきました。

このほかに、スポット的な活動として、地質調査要領エッセンスの抽出・追加、他機関コンテンツへのリンク、リンク集を含む既存コンテンツのメンテナンスなどを行いました。

また、編集委員長からの依頼・要望に基づき、HPに掲載している『土と岩』の目次集を作成するとともに、『土と岩』へのQRコード掲載について審議し、意見具申を行いました。

このほか、昨年度からの継続検討事項となっていた遠隔臨場体験の情報提供について、体験した方々からのヒアリングを基に、“遠隔臨場体験記”にまとめ、お知らせに掲載しました。

以上のような活動を通じて、ホームページの改善、使い易さ向上と、参考情報の提供に努めてきました。その甲斐あってかどうかは不明ですが、今年度には、掲載コンテンツの一部について、他学会の方(本部は東京)及び、関西の比較的大きな企業の方から、利用の問い合わせをいただきました。これまでも同様の利用の問い合わせはありましたが、東海地方の支部の方からのものでした。今回のような東海地域以外の方々からの問い合わせは少し驚きでした。因みに、今回問い合わせをいただいたコンテンツは、“技術資料”に掲載している「東海三県の地質と土

木地質の特徴」と、“地質調査業とは”に掲載している「地質調査技術マニュアル エッセンス」でした。

上記のように、今年度は、東海地方以外でも、いろいろな方々にご覧いただいていることを“実感”しましたので、ワーキングメンバー一同、今後とも、使いやすく、少しでも参考になる情報が得られるホームページを目指して、引き続き、活動していきたいと考えております。

以上のように、今年度の活動は、これまで以上に活発であったと思います。

以降では、主な活動の一端を紹介します。

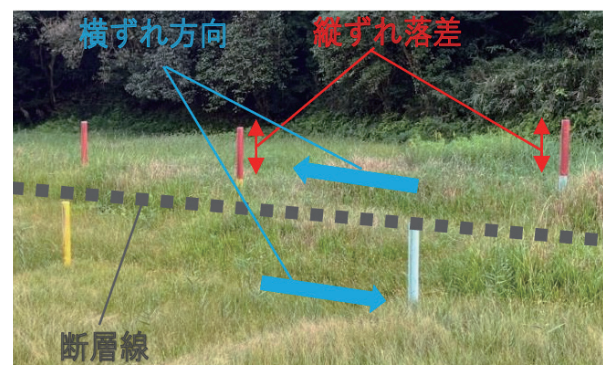
身近な地質スポットの追加

身近な地質スポットについては、「志摩地方のリアス式海岸」「深溝(ふこうず)断層」を追加しました(近隣のラーメン店情報も含む)。

「志摩地方のリアス式海岸」では、伊勢志摩国立公園に指定されている三重県中西部の志摩半島の、複雑に入り組んだ海岸線(リアス式海岸)や、その周辺の地形・地質を紹介しています。外洋に面した海岸に発達した海食崖(例:下写真)、海食洞、内湾側の魚骨状・鋸歯状の小島群の存在、高角度で傾斜した矢層群の露頭などについて解説されています。



「深溝断層」では、昭和20(1945)年1月13日の三河地震によって地表に出現した地表地震断層である“深溝断層”や“宗徳寺本堂裏の地割れ”などを紹介、解説しています。これらは県や市の天然記念物に指定され、保存・整備がされており、見学することができることなどが、記載されています。「深溝断層」については、歴史災害スポットページにも関連記事を掲載しています。ご興味のある方はご一読下さい。



【歴史災害スポットページの関連記事】

2014年6月, 2015年1月, 2017年1月, 2017年6月, 2019年6月, 2021年7月

お近くに行かれた際には、ラーメン店ともども、是非、お立ち寄り下さい。

一口メモの追加

一口メモについては、今年度は、以下のものを追加しました。今後も随時、追加・更新をしてまいります。

【防災に関するもの】

中部地方の活断層、櫛形山脈断層帯、塩沢断層帯、高田平野断層帯、十日町断層帯西部、糸魚川～静岡構造線断層帯、富士川河口断層帯、木曽山脈西縁断層帯(主部／南部)、境峠・神谷断層帯主部、高山・大原断層帯(国府断層帯)、阿寺断層帯(主部／北部)、森本・富樫断層帯、砺波平野断層帯・呉羽山断層帯、琵琶湖西岸断層帯(北部)、南海トラフ地震、南海トラフ地震で想定される震度や津波の高さ、南海トラフ、南海トラフ地震の過去事例、南海トラフ地震臨時情報

遠隔臨場の事例紹介：遠隔臨場体験記の掲載

遠隔臨場体験情報については、昨年より、体験した方々からのヒアリングと、とりまとめを行ってきました。今回、わかりやすくまとめたいただきましたので、会員専用ページのお知らせに掲載しました。

遠隔臨場は、今後、増加していくことが予想されます。今後とも、情報をいただいた際には、事例紹介等の形で、皆様に情報をお届けしたいと考えております。

今回アップした事例は、会員企業において実際に体験したものですので、身近な事例です。是非、ご覧下さい。



リンク先の追加

今年度は、主に以下のサイトをリンク先として追加しました。

【能登半島地震関連】

- ・内閣府 防災情報のページ
- ・国土交通省

- ・金沢地方気象台
- ・石川県
- ・時事ドットコムニュース

【防災・減災関連】

- ・国土交通省ハザードマップポータルサイト:身の回りの防災に役立つ情報
- ・ハザードマップポータルサイト／液化化

【関係団体等:国・自治体】

- ・気象庁
- ・名古屋地方気象台

『土と岩』の追加、目次集の追加

協会誌『土と岩』については、最新版を追加しました。No.30～No.47の古い『土と岩』も追加しました。ご協力いただき皆様、ありがとうございました。

また、これにあわせて、ホームページ上に目次集を追加しました。ご利用ください。

地質調査に関する基本的な情報の充実

ここ数年、地質調査に関する基本的な情報の充実を図ることを目的として、「地質調査技術マニュアル エッセンス」、「地質調査要領エッセンス」コンテンツを作成して、少しずつ情報の追加を行ってきております。

昨年度には、後者について、「山岳トンネルの地質調査」を“もっと詳しく”部分に追加しましたが、今年度には、「建築物の地質調査」及び「切土構造物の地質調査」を、“もっと詳しく”部分に追加しました。

このコンテンツは、種々の対象物に対する地質調査のポイントや概要を知りたいときや、新しく入社された方の研修時などにご活用下さい。今後、順次、資料をアップしていきます。



対象物・活用調査	ポイント	もっと詳しく
地質調査の目的と調査計画	🔍	🔍
建築物の地質調査	🔍	🔍
切土構造物の地質調査	🔍	🔍

引き続き、ご支援・ご協力を

令和7年度の活動につきましても、これまで同様、皆様からのご意見、ご要望等を、できる限り活動に反映させる形で進めてまいります。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。